

令和7年度 八幡浜市立八幡浜中学校 学校評価表

* 「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の割合を肯定率とする。分からない・回答できないは、分母に含まない。
* 平均値は、「よくあてはまる→4 ややあてはまる→3 あまりあてはまらない→2 全くあてはまらない→1」として計算

	NO	対象	令和7年度（後期）項目	R7前期 肯定率	R7後期 肯定率	R7 後期 1年	R7 後期 2年	R7 後期 3年	R7前期 平均	R7後期 平均	R7 後期 1年	R7 後期 2年	R7 後期 3年	分析と対応
1 安全・安心で、 誰もが居心地の良い 学校づくり	1	生徒	学校生活が楽しく、充実していると思う。	94%	91%	90%	88%	95%	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	○評価は微減しているが、運動会や文化祭などの学校行事を通して、生徒が主体的に活動し、個性を発揮する場面が多く見られた。 ○一方で、統合当初の期待感が落ち着く中で学校生活の感じ方に差が出てきた可能性があり、人間関係の悩みや小さな行き違いを抱える生徒も一定程度いと考えられる。3年生は進路に向け前向きに取り組めているが、1・2年生では多様な人間関係に不安を抱える生徒もいるため、日記指導や教育相談を通して丁寧な支援を継続する。
		保護者	お子さんは、元気に楽しそうに学校へ通っている。	92%	89%	85%	89%	92%	3.4	3.3	3.3	3.3	3.4	
	2	教師	学校は、生徒一人一人が互いのよさを認め合い、安心して自分らしく過ごすごがでている。		100%					3.2				○11月の「差別をなくする強調月間」に、人権・同和問題学習に重点的に取り組み、人権意識の向上に努めた。また、ICTを活用したアンケート（生徒は2か月に一度、保護者は学期に一度）を継続し、気になる回答があった場合は速やかに事実確認を行い、学年会や生徒指導部会で共有して、安心して自分らしく過ごせる学校づくりに努めている。 ○一方で、生徒は4ポイントの低下（2年生は1学期と比較し、10ポイント低下）している。多感な時期でもあり、人間関係に悩みや不安を抱える生徒も一定数見られる。1学級が40人程度となり、教員の支援が十分に行き届かないという意見もあるため、教職員間の情報共有を密にし、生徒の承認を意識した関わりや言動の変化への気付きに引き続き努めたい。
		生徒	学校は、互いのよさを認め合い、安心して自分らしく過ごせるような雰囲気がある。	92%	87%	91%	82%	90%	3.4	3.3	3.4	3.3	3.3	
		保護者	学校は、生徒一人一人が互いのよさを認め合い、安心して自分らしく過ごせる学校づくりになっている。	89%	89%	83%	91%	91%	3.1	3.1	3.0	3.1	3.2	
	3	教師	八中生は、時と場合に応じた爽やかな挨拶や会釈ができています。		66%					2.7				○生徒会本部役員や生活委員会を中心に、朝の挨拶活動に取り組んだ。生徒の評価は高いものの、教職員・保護者の評価は前期同様に低い。挨拶をされると返せる生徒は多いが、自ら率先して挨拶をする姿は十分とは言えない。「先取り挨拶」「相手に伝わる声」「相手の目を見る」といった基本を、学校生活の中で粘り強く指導し、今後も生徒会活動を中心に取組を継続する。 ○地域の教育力の視点からも、保護者の協力は欠かせない。登下校の際などに、八中生への声掛けや挨拶を積極的に行っていただけるとありがたい。
		生徒	あなたは、学校や地域で、時と場に応じた爽やかな挨拶や会釈を心掛けている。	92%	89%	85%	90%	91%	3.4	3.4	3.4	3.3	3.4	
		保護者	八中生は、時と場合に応じた爽やかな挨拶や会釈ができています。	80%	77%	75%	77%	80%	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	
	4	教師	八中生は、交通ルールやマナーが守れている。		68%					2.7				○教職員・保護者の評価が低く、生徒の自己評価との間に差が見られるが、大半の生徒は交通ルールやマナーを守って登下校ができています。ただ、地域から自転車の乗り方や歩き方について指摘はまだあり、一部では安全面で看過できない事例も報告されている。登下校時の現地指導を継続しながら、一部の生徒には危険走行や危険な歩行について自覚を促し、当事者意識を育てたい。あわせて、教職員数に限りがあるため、地域・保護者や関係機関と連携し、安全確保に努めたい。 ○また、交通渋滞に関する意見も寄せられている。これまでの通学路の追加や時差下校の取組を踏まえ、危険箇所の周知と併せて引き続き安全対策を進める。
		生徒	あなたは、登下校や自転車に乗るとき、交通ルールを守り、安全に気を付けている。	98%	99%	95%	100%	99%	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	
		保護者	八中生は、交通ルールやマナーが守れている。	75%	68%	71%	67%	67%	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	
	5	教師	八中生は、人権を大切にし、差別を許さない言動を心掛け、日常生活の中で行動に表している。		66%					2.7				○教職員・保護者・生徒ともに評価が低かった。人権感覚や相手を尊重する態度の育成は、学校教育の基盤でもある。今後も引き続き、相手の立場に立って言動を考えることの大切さを、学級や部活動を通して粘り強く指導していく必要がある。トラブルが起きた場合は、すべて大人が解決するのではなく、生徒自身が当事者意識を持てるよう支援を心掛け、関係修復に向けて生徒自らが考え、判断し、行動できる自律した生徒の育成を目指したい。 ○また、教職員自身の人権感覚を高めることも不可欠である。日常の対話や研修を通じて学びを深め、人権・同和教育をはじめとする指導を充実させ、多様性を受け入れ、他者を尊重できる生徒の育成を目指す。
		生徒	今学期、あなたは、周りの友達から嫌なことを言われたり、されたりしていない。	70%	70%	68%	66%	75%	3.1	3.0	3.1	3.0	3.1	
		保護者	今学期、お子さんは周りの友達から嫌なことを言われたり、されたりしていない。	65%	63%	62%	58%	70%	2.9	2.8	2.8	2.7	3.0	
2 主体的に活動する生徒の 育成	6	教師	八中生は、自分の生活や行動を自らで考え、判断して行動し、よりよい自分を目指している。		86%					2.9				○本項目は、教育目標である「共に輝け！八中生！～自ら考え、判断し、行動できる自律した八中生～」に関するものであり、教職員・生徒・保護者ともに高い肯定的評価を得ている。 ○一方、授業や学校生活の場面では、声掛けや指示を待つ様子が見られる生徒もあり、当事者意識や主体性の向上には課題が残る。今後は、教育活動において「自分で考え、判断する場面」を増やすとともに、日々の清掃や学級・生徒会活動などを通して、役割や目標を自ら考え、判断し、行動する経験を積ませる支援を全教職員で意識していく。家庭でも自律を育むために、学校での出来事について「どう考えたか」「次はどうしたいか」を言葉にする対話の機会を大切にして学校・家庭とともに自律した生徒の育成を目指したい。
		生徒	あなたは、自分の生活や行動について、自分で考え、判断して行動し、よりよい自分を目指している。	92%	95%	90%	93%	96%	3.4	3.5	3.6	3.4	3.5	
		保護者	お子さんは、自分の生活や行動について、自分で考え、判断して行動し、よりよい自分を目指している。	81%	81%	79%	78%	86%	3.0	3.0	3.0	3.0	3.1	
	7	教師	八中生は、集団の一員として、学級活動や学校行事・生徒会活動に積極的に取り組んでいる。		93%					3.2				○後期も生徒会活動を中心に自律を育むことを重視し、運動会・文化祭を中心に生徒の主体性を大切にしたい取組を行った。生徒にとっても教職員にとっても手探りではあるものの、トライ＆エラーをしながら共に成長する機会となった。今後は、生徒会本部役員が自らの言葉で全体に働き掛け、学校全体を動かすようなリーダーシップの育成も目指したい。
		生徒	あなたは、集団の一員として、学級活動や学校行事・生徒会活動に積極的に取り組んでいる。	83%	86%	85%	82%	88%	3.3	3.3	3.5	3.2	3.4	
		保護者	お子さんは、集団の一員として、学級活動や学校行事・生徒会活動に積極的に取り組んでいる。	83%	84%	88%	79%	88%	3.1	3.1	3.1	3.0	3.3	
	8	教師	八中生は、将来の夢や希望を持ち、目標に向けて挑戦している。		86%					2.9				○保護者の評価が低い結果となった。 ○学校で行っているキャリア教育の取組内容や生徒の成長の様子がご家庭に伝わるよう、学年通信や学校だより、懇談や参観日等を通じた情報発信をより意識しながら、生徒のより良い成長を学校と家庭で連携しながら見守り、育成する必要がある。 ○この項目については、夢や希望を語り、楽しく働いたり、生き生きと活動したりする大人（教師・保護者・地域ともに）が重要であるとする。学校では教師がよりロールモデルとなることを大切にしたい。
		生徒	あなたは、将来の夢や希望を持ち、目標に向けて挑戦している。	83%	85%	78%	82%	88%	3.3	3.3	3.4	3.3	3.4	
		保護者	お子さんは、将来の夢や希望を持ち、目標に向けて挑戦している。	68%	70%	65%	63%	84%	2.8	2.9	2.7	2.8	3.1	
	9	教師	八中生は、仲間と協力したり自分で考えたりしながら、清掃活動に前向きに取り組んでいる。		69%					2.7				○清掃活動には、前向きに取り組む生徒が多い一方で、清掃の意味を十分理解できず、時間だけ過ぎてしまう生徒が一部いる。こうした実態が、教職員の評価が下がっている要因と考える。こうした実態を踏まえ、3学期は生徒の清掃の割り当て場所を学級担任が配慮することで、各場所のリーダーを中心に取組の様子が大きく改善している。今後も生徒が主体的に清掃に取り組めるよう、清掃環境の工夫も含め教職員で支援を続けていきたい。
		生徒	あなたは、仲間と協力したり、自分で考えたりして、黙々と清掃活動に取り組んでいる。	81%	81%	80%	78%	82%	3.2	3.3	3.4	3.2	3.2	
	10	教師	八中生は、失敗を前向きに受け止め、次の行動や成長に生かそうとしている。		93%					3.0				○2学期は、運動会や修学旅行、集団宿泊研修、文化祭、新人戦など、挑戦の機会が多く、それぞれで充実した活動ができた。こうした小さな成功体験の積み重ねにより、特に2・3年生を中心に評価が高まっている。今後も、生徒の自己肯定感を高めるために、自己決定の場面を増やし、小さな成功体験を積み重ねられるよう教職員で支援していきたい。
		生徒	あなたは、努力すれば、できるようになることがあると感じている。	90%	94%	88%	94%	94%	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	
		保護者	お子さんは、努力すれば、できるようになることを実感することがあった。	82%	83%	86%	79%	85%	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	

令和7年度 八幡浜市立八幡浜中学校 学校評価表

* 「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の割合を肯定率とする。分からない・回答できないは、分母に含まない。
* 平均値は、「よくあてはまる→4 ややあてはまる→3 あまりあてはまらない→2 全くあてはまらない→1」として計算

		N0	対象	令和7年度（後期）項目	R7前期 肯定率	R7後期 肯定率	R7 後期 1年	R7 後期 2年	R7 後期 3年	R7前期 平均	R7後期 平均	R7 後期 1年	R7 後期 2年	R7 後期 3年	分析と対応
3 個に 応じた 指導の 充実	11	教師	八中生は、日々の授業の内容が理解できている。		89%						2.9				○前期同様、保護者の評価が低い結果となった。 ○引き続き「分かる授業の実践」と「生徒の主体性を重視した授業展開」に努めるとともに、多様化する生徒の実態を踏まえて、特別支援教育の視点を取り入れた授業改善に関する研修も併せて行うことで、少しずつではあるがすべての生徒にとって「学びやすく、取り組みやすい授業」につながっていくと考えている。
		生徒	あなたは、授業の内容が分かり、基礎的・基本的なことが理解できている。	84%	88%	88%	85%	89%	3.3	3.3		3.4	3.3	3.2	
		保護者	お子さんは、授業を通して基礎的・基本的な学習内容が身に付いている。	66%	66%	67%	62%	70%	2.8	2.8		2.7	2.8	2.9	
	12	教師	八中生は、粘り強く学習に取り組んだり、学習方法を工夫した自主学習に取り組んだりしている。		70%						2.7				○前期に続き、保護者の評価が低い結果となった。 ○生徒の学習改善に向けて、授業改善や個に応じた指導や支援を行う。 ○家庭学習として取り組んでいる自主学習ノートについては、学年や個によって取り組みが様々である。生徒の実態に合わせた家庭学習の在り方について教職員はもちろん、学習委員会でも検討していく。また、各家庭での話合いや声掛けもお願いしたい。
		生徒	あなたは、粘り強く学習に取り組んだり、学習方法を工夫した家庭学習に取り組んだりしている。	80%	79%	83%	73%	81%	3.2	3.2		3.3	3.1	3.2	
		保護者	お子さんは、粘り強く学習に取り組んだり、学習方法を工夫した家庭学習に取り組んだりしている。	63%	64%	58%	58%	77%	2.7	2.8		2.7	2.7	3.0	
	13	教師	八中生は、ＩＣＴを授業で積極的に活用し、主体的・対話的・深い学びが実現している。		96%						3.1				○今後も引き続き、授業の中で、議論したり、競い合ったりして、お互いに高め合うために必要な風土づくりに努めたい。コミュニケーション能力や読解力を高める手段として、来年度は県総合美術館の「対話型授業」を総合的な学習の時間に取り入れるなど、生徒の資質・能力の向上を目指したい。
		生徒	あなたは、授業で自分の考えを持ち、友達との話合いを通して、考えを深めたり、伝えたりすることができる。	88%	88%	92%	82%	88%	3.4	3.4		3.6	3.3	3.3	
	14	教師	あなたは、生徒一人一人を理解し、困ったときに相談できる関係づくりに努めている。	96%	97%				3.3	3.3					○生徒は前期より4ポイント、保護者は6ポイント以上低下し、前期に続いて保護者の評価が伸び悩む結果となった。統合に伴う学級の生徒数増により、統合前に比べて一人一人への関わりが行き届きにくくなっている面がある。今後は、日常的な声掛けの充実と学年内の情報共有を進め、困ったときに相談しやすい関係性づくりを一層意識したい。 また、学校での様子や支援の方針を学年・学級通信や日々の電話連絡で保護者へ積極的に発信し、安心感につなげていく。学年別では、3年生は受験期で担任と相談する機会が増え評価が上がる一方、1・2年生で低下が見られるため、早い段階から教育相談の機会を意図的に設定する必要がある。
		生徒	あなたの話を聞いてくれて、困ったときに相談できる先生がいる。	86%	84%	82%	77%	89%	3.3	3.3		3.5	3.2	3.4	
		保護者	お子さんの話をよく聞き、困ったときに相談できるような先生がいる。	79%	75%	65%	73%	89%	3.0	3.0		2.9	2.9	3.2	
4 家庭・ 地域との 連携・ 協働	15	教師	あなたは、来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方との対話を大切にすることで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めている。	100%	97%				3.4	3.2					○全校平均の肯定的割合は88%であり、保護者や地域の方が来校しやすく相談しやすい体制・雰囲気づくりは概ね進んでいる。特に3年生は95%と高く、受験期の相談対応が比較的適切に行えていると考えられる。一方で、一定数は十分とは感じていないことも踏まえ、今後も保護者の声に丁寧に耳を傾けながら、相談しやすく来校しやすい、開かれた学校づくりに努めたい。
		保護者	学校は、保護者や地域の方が来校しやすく相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めている。	87%	88%	86%	83%	95%	3.1	3.1		3.0	3.0	3.2	
	16	教師	あなたは、家庭と連携して積極的な生徒指導（支援）に努め、保護者の学校生活に対する不安の軽減を図っている。	96%	96%				3.4	3.4					○トラブルに関しては、生徒に当事者意識を持たせる指導を大切にし、家庭と連携しながら、丁寧に迅速な対応を心掛けている。今後も学年部を中心に家庭と連携しながらより良い生徒指導（支援）の在り方を模索したい。
		保護者	学校は、家庭と連携して生徒指導（支援）に積極的に取り組み、保護者の学校生活に対する不安を和らげるよう努めている。	88%	88%	80%	90%	94%	3.1	3.1		3.0	3.1	3.3	
	17	教師	学校は、教育活動に関する情報を、通信やホームページなどを通じて、家庭・地域に知らせるように努めている。	82%	100%				3.0	3.4					○ホームページについては、個人情報保護の観点を意識した上で、保護者や地域に向け、こまめな情報発信を心掛けてきた。今後も継続することで、学校教育活動への理解と協力をお願いしていく。八中だよりや学年・学級通信も活用して学校の様子を積極的に発信していきたい。
		保護者	学校は、教育活動に関する情報を、通信やホームページなどを通じて、家庭や地域に知らせている。	95%	95%	97%	93%	95%	3.4	3.4		3.3	3.3	3.4	
5 教職員 について	18	教師	あなたは、思いやりの心を育む道徳教育を推進している。	100%	97%				3.6	3.2					○授業や休み時間を中心に、交流がより効果的に図れるよう、支援を要する生徒の情報を教職員で共通理解し、指導・支援の一層の充実を図っている。現在、特別支援学級の生徒の中に、これまでの技能教科に加え、五教科においても交流授業への参加を希望する生徒が見られる。本人の希望を尊重し、教科担任・学級担任を中心に、安心して学べる環境と支援体制を整えたい。
	19	教師	あなたは、特別支援学級と通常学級との交流が効果的に図れるよう、場の設定や活動の工夫に努めている。	95%	96%				3.3	3.1					
	20	教師	あなたは、豊かな専門性を身に付けるために、校内研修や自主研修に積極的に参加している。	88%	86%				3.2	3.0					○生徒や学校の実態に合った研修の企画・運営に努めたい。 ○統合初年度で業務が増えているだけでなく、2学期は行事が集中し、多忙化によって業務量・時間外勤務ともに増加した。また、年間を通じて部活動終了後に業務を行うことが多く、退勤時刻は遅くなりやすい。今後は、業務と行事の精選を進めるとともに、会議等の効率化を図り、学校全体で時間外勤務の縮減に取り組むたい。また部活動においては、休養日や終了時刻について再検討するとともに、市が推進する地域展開にも期待したい。
	21	教師	あなたは、仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が長時間にならないよう意識改革に努めている。	80%	66%				3.1	2.9					